図工科

昨年度の取り組みと成果と課題

【　成果　】

・全学年を通して、意欲的かつ丁寧に作品づくりに取り組むことができた。
・造形活動を実施することで、発想の広がりが見られ、グループで協力して活動することができた。
・発達段階に応じて ICT 機器を活用することができた。

【　課題　】

・低学年は、のりの使い方、絵の具を塗るときの筆の置き方、クレヨンでむらなく塗る方法など、道具の基本的な使い方を全員が身に付けられるようにする必要がある。
・中・高学年では、基本的な用具の扱いに見られる個人差を解消していく必要がある。また、時間や制作過程の見通しを持って取り組めない児童への支援を工夫する必要がある。

学習状況の分析

〇知識・技能

・低学年は、全体的に道具の正しい使い方に慣れていない。道具の使い方が上手な児童を紹介すると意欲が高まり、工夫して道具を扱うことができる。
・中学年は、新しく使う道具に興味をもって積極的に道具の扱い方を覚えようとする児童が多い。刃物の道具で怪我をする児童が多い。
・高学年は、カッター・小刀・のこぎり等の刃物や、クランプ・ペンチなどの道具の扱いには積極的である。より表現の質を高めるために、制作過程の見通しを持つことが必要である。

〇思考・判断・表現

・低学年は、自ら進んで好きなものを発想し表している。テーマに沿って作品をつくるときに友達や参考作品に影響される児童が多い。繰り返し似たものを作る傾向が見られる。
・中学年は、ゲームやアニメなど、既存のビジュアルイメージをそのまま引用してしまう児童がいる。一方で、題材のめあてをとらえ、自分なりにじっくりと考えて表現しようとする児童も多くいる。
・高学年は、題材のテーマについて考え、自分らしく表現しようとしている児童が多い。構想の際に既習事項を活用することには個人差が見られる。

〇主体的に取り組む態度

・低学年は、楽しみながら意欲的に作品をつくることができる児童が多い。全体として、作品を早く完成させてしまうと意欲が持続しない傾向もある。
・中学年は、意欲的に新しい素材や道具に触れる児童が多い。作りたいという気持ちが強いため片付けの切り替えがなかなかできない児童もいる。
・高学年は、テーマを深く考えながら表現しようとする児童が多い。一方で、考えすぎて手が進まない児童や、自分で学習の計画や時間を立てて活動することが難しく、なかなか完成しない児童もいる。

授業改善のポイント（観点別）
【　低学年　】 **〇知識・技能** ・児童がお互いに道具の使い方を教え合う時間を設け、道具を正しく使えるようにする。 ・日頃から、はさみやのり、色鉛筆、絵の具、クレヨンを使う機会を増やし、使い方を掲示することで正しい用具の使い方を学習させる。特に刃物や彫刻刀の安全な持ち方や正しい使い方の指導を徹底し、怪我のないよう指導する。 **〇思考・判断・表現** ・生活経験や想像したことなど、児童の発達段階に合わせて表したいことを考えさせるようにする。 ・造形活動や手や体全体をつかった題材を増やすことにより、発想や思考を広げるようにする。 **〇主体的に取り組む態度** ・思いを込めて最後まで丁寧に作品をつくることができるよう、児童の表現したいことや丁寧に取り組んでいるところを褒めたり助言したりして、意欲を高める。 ・毎時間の作品を児童がタブレットのカメラ機能で撮影しオクリンクプラスで振り返り・鑑賞を行う。
【　中学年　】 **〇知識・技能** ・はさみ・カッター・彫刻刀など、題材ごとに使う道具の特性と技術を十分に習得できるようにするために、事前の小作品の制作等を通じて、扱いに慣れさせる。必ず道具の使い方の注意点を掲示する。 **〇思考・判断・表現** ・初めの制作の段階で、児童それぞれの想像が膨らむように班で話し合いの時間を設ける。 **〇主体的に取り組む態度** ・経験や興味に合わせた課題設定によって、主体的な活動を促す。また、意欲が持続するように、制作途中で新しい表現方法の提案をしたり相互鑑賞をしたりし、活動に変化をもたせる。 ・毎時間の作品を児童がタブレットのカメラ機能で撮影しオクリンクプラスで振り返り・鑑賞を行う。
【　高学年　】 **〇知識・技能** ・表し方の変化や、表現の意図や特徴に気付くことができるように、グループやクラスでの話し合いや発表の機会を設定する。また、よい着眼点を共有し、鑑賞能力を高める。 **〇思考・判断・表現** ・言葉や物語から発想を広げて表す活動を行うことで、思考や表現に深みをもたせる。 ・作るものの意図や美しさ、楽しさを考えて構想できるように意図を言葉で表しながら作るように指導する。材料や用具を使う際は、既習事項を活用し過去の題材を振り返りながら使用法を確認する。 **〇主体的に取り組む態度** ・見通しを持って学習に取り組むため、毎時間ごとに自分で目標を立てることで計画を意識させるとともに振り返りを行い次回の計画に繋げる。 ・毎時間の作品を児童がタブレットのカメラ機能で撮影しオクリンクプラスを使いながら互いの作品の鑑賞を行う。